

生物系研究室セミナー報告

2014年10月15日（水）に今年度第4回目の生物系研究室セミナーが開催され、プロジェクトと関連のあるテーマで研究している塘研究室の大学院生2名（志賀澄歌と増渕翔太、両名ともに博士前期課程2年）が発表しました。

生物系研究室セミナーは、福島大学における生物学の教育研究の活性化を目的として、共生システム理工学類の5研究室、人間発達文化学類の1研究室で運営しており、毎月1回程度開催しています（今年度で5年目となりました）。理工学類の5研究室の教員はすべてプロジェクトのメンバーで、プロジェクト初年度（2012年度）の第5回談話会はこのセミナーと合同で開催しました。

志賀は「日本の山岳域に生息するアザミウマ亜科の未記載種（昆虫綱：アザミウマ目）」のタイトルで、増渕は「福島県内に生息するヒメシロカゲロウ属3種（カゲロウ目：ヒメシロカゲロウ科）について」のタイトルでそれぞれ発表しました。

志賀は山岳域のイネ科から記録されたアザミウマ亜科の未記載種の所属について、形態的特徴に基づいた結果を報告しました。また、福島県や長野県における調査から本種の寄主植物の一部を明らかにし、寄主植物の分布から本種の分布を議論しました。志賀の研究や調査によって、本種は既知の分布地よりも広範囲に分布する可能性が高まりました。

増渕は裏磐梯の池沼から発見したヒメシロカゲロウ属の止水性未記載種に加えて、福島県内の河川から新たに2種のヒメシロカゲロウ属の種を発見し、その幼虫や成虫の形態的特徴からこれら2種も未記載種である可能性が高いことを報告しました。また、ライトトラップによる成虫の調査から、止水性種は生息場所によって化性が異なること、流水性種は2種間で出現時間が異なることなどを明らかにしました。

二人の発表は先月学会で発表した内容をベースに、未発表のデータを加えたもので、数多くのフィールド調査をこなし、未記載種の形態的特徴や所属、分布、生態の一端を明らかにしており、研究材料のもつユニークさが伝わってくる発表でした。また、今後の展開にも大いに期待できるなど、共通点のあるエキサイティングな発表でした。今後詰めていく必要がある課題もいくつか指摘して頂いたもので、それらを消化してより良い研究・修論・投稿論文に仕上げてもらいたいと思います。M1生や学類生への良い刺激にもなったのではないのでしょうか。



山岳域に生息するアザミウマ亜科の未記載種(左)とライトに誘引されたヒメシロカゲロウ属の未記載種(右)
どちらも第4回生物系セミナーのチラシから